

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400516		
法人名	有限会社アイ		
事業所名	グループホーム アイケアホーム		
所在地	福山市神辺町字東中条1177番2		
自己評価作成日	平成24年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成24年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山と池に囲まれ、静かでのどかな場所にあり、春はリビングから桜を眺める事が出来ます。また、鴨が悠々と泳いでいる姿や四季折々の花を楽しむことができます。当施設は9人の利用者と毎日一緒に生活する場として、出来ることは自分で、出来ないところを手助けするようにしています。日常生活で当たり前の生活を当たり前に生活できるように、利用者さんと共に協力しながら日々生活しています。誤嚥を招き易い方が半数以上おられる中で、楽しく食事ができるように、毎食手作りにこだわり喜んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれた事業所はゆったりとした趣があり、利用者の皆さんは心豊かに生活が送られている。防災設備も整い安全な環境が保たれて、建物全体の整理整頓がされていた。スタッフの利用者への熱心な取り組みがお互いの気持ちの繋がりを築いており、明るい生活の様子が伺えた。食事内容や対応は個人に合わせたものとなっており、利用者はそれぞれに楽しそうな生活の様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務に就く前に必ず目に入る位置に理念を掲示し、理念に基づいて日々の介護に取り組んでいる。	事業所の理念は三か所、スタッフに見え易い位置に掲示されており、常に理念に基づいた介護サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事の案内を回覧板に入れさせて頂き、地域の方が気軽に立ち寄れるようにしている 消防訓練に参加して頂き、火災時の対応の訓練をしたり、地域の行事には入居者の体調を考慮してできるだけ参加させて頂くようにしている	非常時に備えて近隣との付き合いを大切に心掛け事業所の行事の案内を回覧したり、日頃から交流を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に施設の行事案内をして、参加して頂き、実際の介護状況を見て頂いている 理解して交流が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の民生委員、家族、包括職員、地域代表者さんに参加して頂き、状況報告、各種行事の案内をして、皆様から意見を頂きサービスの向上に活かしている。	2か月に1回土曜日に会議を開いている。閉鎖的でない事業所であることをアピールし、認知症についての勉強会をしたり輪を広げる工夫をして、意見交換しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡は密ではないが、神辺支所には解らない点はお尋ねしている。生活保護担当者の方が来られたときは、相談に応じてもらっている。	運営推進会議が土曜日に開催されているため、市町村担当者の参加が望めないため、事業所の実情やケアサービスの取り組み等を折に触れて伝えておくことが大切である。	運営推進会議の議事録、利用者やその家族等との交流、防災の取り組み等機会を見つけて連絡・報告することで市行政と積極的な連携関係を築く取り組みに期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のケア目標として身体拘束ゼロをあげて取り組んでいる。	管理者とスタッフとの会議で拘束ゼロに向けての取り組みをしている。年間の社内研修計画にも組み込み身体拘束の弊害を理解する努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を会議の中で話し合い、どんな事が、虐待に繋がるのか、普段当たり前だと思って言っている言葉も、利用者にとっては、自尊心を傷つけているのではないか、話あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加しその資料を基に、必要時には対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず本人と家族の方と面談の上契約を行なう、改定時には前もって文書にて報告をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、遠慮なく要望が言えるようにしている。また、日頃より信頼関係が築けるように面会時には職員のほうから様子を伝えるようにしている。	日頃から家族の訪問時に意見を聞くようにしており、記録している。運営推進会議でも要望や事業所に対する意見も聞いている。出た意見・要望は検討し運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて意見や提案を聞くようにしている。出された意見等は職員で話しあい納得の上で運営に反映させている。	会議やカンファレンスで意見や提案を聞き内容を皆で共有し、再確認をして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションをとり職場環境等について検討、改善を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員のレベルに応じた研修を選択し、受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講演の場を同業者との交流の場と兼ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはある程度の人間関係が出来るように本人に面会をして希望、思いを聴くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にある程度の人間関係が出来るように家族に面会し要望等を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテイクの際に施設入居以外のサービス利用が適応であれば、その都度対応している。本人、家族の思いを大切にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事前のテーブル拭き、手の消毒などをしてもらったり、お盆拭き、野菜の皮むき、味見、洗濯物やおしぼりを畳んだり、洋服の繕い等できるだけ一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関係が絶えないように、また負担とならないように、絶えず相談を行い、家族とともにご本人を支えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や地域の方、どなたでも気軽に面会できる雰囲気づくりを心がけている。	地域の知り合いが面会に来たり、出かけた商店等でなつかしい人に出会ったりすることから利用者が孤立することはない。利用者の家に行事がある場合は家族が来て家族関係を保っている人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を把握して、座る位置や声かけに配慮し、生活の中やレクリエーションで共に行なえる場面をつくり、利用者同士が関れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事等の案内や必要に応じて相談できる体制で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人の希望や困っている事を把握するようにしている。	ひとり一人の状態を把握し、家族からも情報を得てその人の暮らし方に添うよう努めている。不満やイライラが見えた場合等はそっと散歩に連れ出したり、話を聞いたりして日々の関わりを丁寧に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテイク時の情報だけでなく、入居後も家族や本人より日常生活上で情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行なって状態把握につとめている。その日の精神状態も把握し、その都度対処している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向をまずお伺いし職員会議でカンファレンスをおこなっている。	アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、計画を見直し、本人や家族の要望に応じたものとなっている。月に1回来所する家族が多いからその時、介護内容を話し合い、介護計画に反映できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人援助記録の活用を徹底し特記事項は申し送り帳で全員に送りをして情報を共有しており、見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調変化や入院等入院の準備が家族の対応困難なときは職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるピアノ演奏を毎月行い、歌を歌うことによる音楽療法に取り組んでいる。花見、夏祭り、クリスマスの時には地域の方の尺八、三味線、二上がり踊り、手品等楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診経過は特変時には家族にその都度報告をしている。また月1回の家族への手紙で状況の報告をしている。	協力病院への受診支援を行っている。受診状況や容態については、緊急の場合を除いて家族へ手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の報、連、相を基本的には申し送り帳で行い、緊急時は管理者が口頭にて看護師に申し送りをして利用者の適切な受診や看護を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず職員が同行し、病院関係者とのコミュニケーションをとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応として、看取りをしない事を伝え、重度化した場合の、本人、家族の気持ちを聞くようにしている。	重度化した場合看取りはしないという事業所の方針を入所時に説明して承諾を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故の発生時の訓練はおこなっていない。マニュアルを参考にして急変時の対応を職員に話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練をおこなっている地域の方にも参加願い協力体制を築いている。夜間を想定した訓練を実施している。	事業所だけの訓練ではなく近隣の協力も得て災害対策に備えている。非常用の電話が消防署へ繋がる仕組みがとられている。夜間の訓練も実施している。常日頃から災害に対するシュミレーションを怠らないように意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己決定ができるようない賭けをして、本人の思いや、誇りを損なわないように対応している。	利用者のその人らしい尊厳ある姿を大切に、スタッフはその目指している意味を大切に意識維持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も介助する前に本人に声をかけたり、尋ねてから、介助するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに沿って支援をしており、行動を職員の都合で優先することはないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身だしなみに関心を持ち、声掛けをして本人の興味を引き出す工夫をしている。散髪は施設内ですて、希望者は、散髪屋さん連れて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞いて準備したり、一日のトータルで栄養を考え手作りで、食事を作っている。食欲をそそるように、盛り付け、色合い、を工夫している。嚥下困難な方には、ミキサー食にトロミをつけて色あいをよくしている。	口腔体操をし嚥下機能低下予防に努めている。食事は楽しい物となっているようでその人に合った内容となっていた。スタッフが寄り添っての食事風景だった。調理や片づけを手伝う人もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人援助記録にすべて把握できるように記録しており、水分量、食事量の不足気味の方には、本人に合わせて飲料、プリン、ゼリー、果物等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声掛けをして行っている自分で難しい方は職員が介助して口腔内のチェックをして、清潔を保つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者によってはトイレを使用している定期的に清掃している。入居者個々の状態を把握して、トイレでの排泄ができるように支援している。	その人の機能におおじて声かけをし出来るだけトイレでの排泄に心掛けている。パターンを目安に誘導支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を行い、牛乳・ヨーグルト植物繊維・果物を摂取してもらっているが、それでも便秘ぎみの方は担当医師に相談して下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ入居者の要望に合わせて入浴をしている(皮膚湿疹 下痢)	週に2回の入浴となっているが、利用者のその日その時の希望を確認して臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態、希望に合わせて介助するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については利用者ごとの薬局の処方箋をファイルしており職員は理解をしている、服薬変更等は都度申し送り帳にて職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌うのが好きな人、縫い物、編み物が好きな人、個々の生活歴を考慮して、お誘いしている。家事が好きな方には、手伝って頂いたり、外に出掛けることが好きな方には散歩、外出で、気分転換している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の外出支援は職員が対応しているが個別の外出支援が困難なときは家族の協力をお願いしている。	家族の協力を得て本人の希望をかなえることもある。季節ごとの楽しみを支援していてその場面の写真等の記録でスタッフと利用者とのリラックスした様子が伝わる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できない方の支援は行なっていない本人の必要な物品の購入は立替え払いにて家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望にそって支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は適度な採光でバリアフリーとなっている。季節の展示物も入居者と職員の共同制作である。	季節の展示ものは心和むものがあり印象がよかった。共用空間は整理整頓が出来ていて清潔だった。利用者は居心地よさそうだった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のトラブルを避けるため座る位置の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのもの(家族の写真、仏壇、人形等)を飾られて、居心地よく生活できるようにしている。	居室はその人らしいものとなっていて、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入り口には部屋を間違わないように花の写真を部屋ごとに変えて表示しており、本人の希望により部屋にPTイレをおいている、建物外から建物内はすべてバリアフリーで廊下には手すりを取りつけてある。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		・転倒事故が増えている。	・ヒアリ・ハットをすぐ書いてミーティングをする。 ・見守りでなくすぐに手が届くところで見守るようにする。	・毎月の会議で事故を防ぐための意識付けをする。	12カ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。